

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオリティ・オブ・ライフ美ら支援教室			
○保護者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14人	(回答者数)	10人
○従業者評価実施期間	2025年2月1日		～	2025年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5人	(回答者数)	5人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・運動療育の充実	課題のある子どもに対し、個別支援のみならず小集団で取り組めるカリキュラムを行っている。	苦手を好きに変えていけるように、楽しく参加しやすいような声掛けや環境設定をしていく。
2	・子ども及び保護者の満足度	子どもたちの「楽しい」を引き出せるよう工夫しながら、保護者が安心感を持っていただけるよう、送迎時等に顔を合わせる際に会話をしながら、信頼関係を築いている。	保護者会や家族参加型イベントを季節の変わり目に定期的に行い、子どもとその家族の繋がりを深めていきたい。
3	・個別療育	来所してからの流れが定着しているので、個別支援の時間が取れている。 学習においても、個々に合わせた学習方法を職員間で共有できている。	支援の質の向上のために必要な研修に、積極的に参加していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・外部連携(児童発達支援センター、地域住民)	初年度ということもあり、地域的な接点を取りづらい部分があったり、市内の児童発達支援センターが最近発足したばかりであったこと。	現在、市のリーダーバンクを活用させていただいていることを継続しながら、児童発達支援センターにも相談していく。地域の子供たちとは開所のときから児童館に赴き連携を取らせてもらっているが、その他に農家等の地域住民との関わりも増やしていく。
2	・外部研修を受ける機会が少ない	多機能型の事業所のため、研修を受ける時間の確保が難しく、参加したい研修にも受けられていない。	他事業所でも行われているように、最低でも月1回のスキルアップ研修等の時間を確保する。
3	・ワンフロアのため、個室空間の確保が困難	棚やロッカー、パーテーションで仕切りを作って対策しているが、音漏れが激しく、音に過敏な子どもへの影響が出てしまう。	専門的な助言をいただきながら、対処していく。イヤーマフを嫌がる子どももいるので、グループ分けでの活動なども増やしていく。